

収量・品質に優れるセンリョウ黄色実の選抜系統「KTS-K1」		
[要約] センリョウ黄色実の選抜系統「KTS-K1」は、収量、品質に優れる多収系統である。市場評価として、「全体的なボリューム」、「葉形の色や形」に優れ、商品性が認められる。		
茨城県農業総合センター 鹿島地帯特産指導所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

本県のセンリョウは東京中央卸売市場で全国シェアの約 60%を占め、全国的にも圧倒的な占有率を誇る。センリョウは民間や公的機関での育種例が極めて少ないため、全国一の生産県の位置を確保し、有利販売を進めていく上で、収量・品質に優れる県オリジナル品種を育成する必要がある。

そこで、本県において収量・品質に優れる黄色実の系統を選抜するとともに、市場関係者からの評価を受け、市場性の確認を行う。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 収量は、「KTS-K1」で積算可販枝数、および次年度以降の収量の目安となるシュート数と地際芽数が多い多収の系統である(表1)。これは、過去4ヶ年の結果とも合致することから、収量・品質性は気象条件や隔年結果性等による年次変動ではなく系統としての特性であると考えられる。「KTS-K1」は遺伝的に固定され、安定している。
- 2) 生産者評価は、総合評価で在来より優れる。評価は、実に係る項目では、「房数」、「実付き」、「大きさ」、「色」の全て、樹形に係る項目では、「樹高」、「硬さ」で在来より優る(表2)。
- 3) 「KTS-K1」の市場評価は、「全体的なボリューム」、「葉形の色や形」、および総合評価である「商品性」で、在来の系統より優れる(表3)。
- 4) 「KTS-K1」の外観は、生育が旺盛であることから葉がやや大振りになる傾向がある(観察)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「KTS-K1」の市場評価は、高級花材を多く扱う A 社で高く、量販品を多く扱う B 社で在来と同等である。当系統の導入、販売にあたっては、高級な上位等級品を多く産する系統として、特化した PR が望ましい。

4. 具体的データ



図1. 「KTS-K1」の外観

表1 収穫調査^z

系統名	H18～21年 積算可販枝 数(本/株)	可販 枝長 (cm)	房数 (房/枝)	シュート数 ^y (本/株)	地際 芽数 (本/株)	地際芽 +シュート数 (本/株)	果皮色 ^x	熟期 ^w
KTS-K1 ^v	8.0	89.8	5.3	1.7	3.9	5.6	6YR1605 鮮橙	中
在来	5.8	87.3	4.7	1.5	2.5	4.0	6YR1605 鮮橙	中

^z 平成11年に所内で播種した6年生苗木を平成17年4月に神栖市波崎の現地圃場に移植。栽植は株間40cm×畝間67cmの単条高畝。栽培管理については農家委託とし慣行通り。

^y 次年度の収穫が見込まれる充実したシュート。 ^x 日本園芸植物標準色票により着色終了時に調査。

^w 着色完了時期で分類し、中:11月中旬、晩:11月中旬～12月上旬。

表2 生産者評価^z(2007年)

系統名	総合 評価	実				葉			樹形等		
		房数	実付き	大きさ	色	大きさ	形	色艶	樹高	樹皮色	硬さ
KTS-K1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0	2.1	2.1	2.1	2.2	2.3
在来	1.0	1.2	1.0	1.5	2.0	2.3	2.5	2.2	1.5	2.3	2.0

^z 生産者評価は右記の平均。3:非常によい、2:良い、1:悪い(評価者数14名)。

表3 市場評価^z

	社名	商品性	実付き	全体的な ボリューム	実と葉の バランス	葉茎の 色・形
市場	A	4	5	5	5	3
	B	3	3	3	3	3
	C	3	1	2	1	3
仲卸	D	6	3	3	3	5
	E	3	3	4	3	3
平均		3.8	3.0	3.4	3.0	3.4

^z 採点は在来の基準点を3とし、次の配点によりアンケートを実施。(0:非常に悪い、1:悪い、2:やや悪い、3:普通(基準)、4:やや良い、5:良い、6:非常に良い)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

センリョウの優良品種の選抜と育苗等栽培技術の開発・平成12～21年度・鹿島地帯特産指導所